

## 人工知能学会編集委員長就任にあたって

清田 陽司

((株) LIFULL AI 戦略室)



本学会の主力事業である全国大会や研究会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に大きな影響を受け、熊本で開催予定であった全国大会はオンライン開催となりました。現地運営担当などの大会委員の方々をはじめ、現地にて face to face で議論する機会を楽しみにされていた皆様にとっても、非常に残念であったと拝察いたします。

一方で、身体の障害、子育てや介護、経済的な困難などの諸事情を抱える方々にとっては、「オンラインで参加できる」という機会が福音となり得ることに思いを馳せる必要があります。本学会が掲げる「人工知能に関する研究の進展と知識の普及を図り、もって学術・技術ならびに産業・社会の発展に寄与する」という目的を達成するには、幅広い背景をもつ方々に学会という場の価値を共有することが欠かせません。もう一つの主力事業である学会誌や論文誌の発行を担う編集委員会では、こうした問題意識のもと、歴代編集委員長を中心に精力的な取組みがなされてきました。学会誌企画の充実、学会誌表紙の刷新などにより、本学会は社会との関わりを深めてきました。しかしながら、さまざまな背景をもつ人々に本学会がリーチできているかといえば、まだまだ道半ばであるように思います。

画像・自然言語処理の先駆者である長尾 真先生は、最近電子出版された随想集にて以下のように述べられています。

厳密な論理的体系を念頭に置きながら学問を作るということは（中略）あくまでも学問の考え方の筋道、骨格を論理的な道筋をたどって作ることであって、骨格作りだけで学問が終わってはならないだろう。そこにどのような肉づけをし、どのような筋肉活動をさせられるかということがあって初めて、現実に合致し、また実際に役立つ人々を納得させられる豊かな学問になるのである。この部分をどうするかが大きな問題であり、ここにこれからの大きな研究領域があると言えるだろう。（「楽天知命——気楽なよしなしごと——」より引用）

本学会設立当時の学会誌を読むと、学問としての人工知能の骨格づくりとともに、「実際に役立つ」ことが、当初から非常に重視されてきたことがわかります。COVID-19 や少子化などの大きな危機に直面している現代社会において、人工知能を本当の意味で豊かな学問にするために、「本当に解くべき課題は何か」を常に問い続けること、問うための材料を提示し続けることが、本学会の役割として非常に重要だと筆者は考えます。卒論生として長尾先生からご指導を受けていた時期、「自分達の学びが社会から支えられていることを意識しなさい」とおっしゃったことが強く印象に残っています。博士課程で企業との共同研究としての対話型ヘルプシステムの研究に取り組んだ時期には、実運用によって得られる生々しいデータと足元の研究テーマのギャップに大いに苦しみました。一方で、現実のニーズから目を背けず、苦しみながらも解くべき課題を見いださなければ意味がないと痛感したことが、その後図書館や不動産など、未開拓ながら豊かで意味のある研究課題にあふれる分野と出合うことにつながったように思います。

このたび、編集委員長という大役をお引き受けするにあたり、市瀬龍太郎前委員長をはじめ歴代編集委員長が尽力されてきた「価値ある論文の採録」、「人材の育成に寄与する記事の掲載」などの方針を堅持するとともに、以下の3点に取り組んでいきたいと考えています。1点目は、人工知能の技術や知見が切実に必要とされている重要な分野の課題に光を当てることです。医療・介護・看護・流通・販売・教育・社会インフラなど、COVID-19 への対応にも重要な役割を果たしている分野で、解くべきとされている課題は何かを、特集企画として共有していきたいと思います。2点目は、人工知能という学問の発達に大きな影響を与えてきた哲学の諸課題にフォーカスし、新たなパラダイムの提示につながる議論を喚起することです。人工知能を学問として確立された先人の方々は、西洋哲学が提示してきた諸課題を徹底的に議論し、人工知能を実際に役立つための土台づくりをされてきた経緯がありますが、最近になって人工知能を学び始めた方々にとっては、その経緯が見えづらいところがあるかもしれません。また、東洋哲学が提示してきた諸課題についても、最近洋の東西を問わず注目されています。このような哲学の諸課題を、できるだけわかりやすく伝えるような企画を実現できればと思います。3点目は、より多くの方々に人工知能の話題に親しんでいただける企画です。現在、人工知能の活用事例を漫画で伝える「教養知識としてのAI」シリーズが連載されていますが、さらにこの方向を発展させ、読み物として楽しんでいただける連載を計画しています。

本学会の活動を有意義なものとするには、会員の皆様のお力が欠かせません。論文や記事の投稿はもちろん、編集委員会への率直なご意見もお寄せいただくと大変ありがたいです。引き続きご協力のほどお願い申し上げます。